

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 7 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730359

研究課題名(和文) 戦後日本社会における 老いと高齢化をめぐる表象と記憶の政治

研究課題名(英文) The Politics of Representation and Memory of Aging in post-War Japan

研究代表者

天田 城介 (AMADA JOSUKE)

立命館大学・先端総合学術研究科・准教授

研究者番号：70328998

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：老い、高齢化、記憶、表象、当事者、歴史、政策、生・政治

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、第一に、戦後の日本社会における高齢者政策の歴史的な文脈を俯瞰した上で、それらの歴史的・政策的文脈のもとにあって、様々な高齢者関連団体・組織などをはじめとする各種団体・組織はいかなる活動・要求・異議申し立てなどの実践を行ってきたのか、そして、それらの団体・組織の実践を通じていかにして政策は変容してきたのかを実証的に明らかにする。第二に、そうした歴史的・政策的文脈と各種の団体・組織のせめぎあいを通じて、あるいはせめぎあいの中にありながらも、戦後日本社会の老いと高齢化をめぐる表象と記憶は形成されてきたのかを解釈することである。要するに、私たちはいかにして戦後日本社会における老いと高齢化を語ってきたのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

これまでの研究の進捗状況は、「5. 代表的な研究成果」に記したように、本科学研究費が採択された2008年4月以降でも雑誌論文35件、学術発表18件、図書33件であり、極めて生産的にその成果を公表することに成功をしてきており、当初の計画を遥かに凌ぐ進展を見せていると言える。特に、本研究課題の中心テーマである戦前ならびに戦後日本社会における老いと高齢化をめぐる政策と歴史の緻密な分析を共編著『老いを治める 老いをめぐる政策と歴史』（北村健太郎・堀田義太郎との共編著、生活書院、2011年3月刊行）としてまとめた上で、2011年5月と7月に当該テーマに関する単著を刊行する。当初予定していたインテンシブなフィールドワークは調査対象者の体調が

優れないといったことがあったため、多少変更せざるを得ない部分もあったが、研究の進展ならびに成果の産出という観点から言えば、当初の計画を遥かに凌ぐ進展を見せており、また多数の成果を産み出すことができた。その意味では、本研究課題は確実な発展的展開と飛躍的進展を示している。

3. 現在までの達成度

上述したように、現在までの達成度としては、「当初の計画以上に進展している」と判断・評価することができるだろう。

その理由として、第一に、当初の研究計画を超える研究の展開を示すことができていること、第二に、雑誌論文・学会発表・著書のいずれにおいても当初の予測を上回る数の成果をまとめることができていること、第三に、その成果は所属学会等に対してのみ発表しているだけではなく、拠点副リーダーを務める立命館大学グローバルCOE「生存学」創成拠点における成果としても広く発表・公開してきており、国際的水準に達するための更なる研究展開を示すことが可能になっていること、第四に、個人の研究として着実かつ発展的に研究を継続すると同時に、それらの成果を共同プロジェクトの研究会等にて報告することによって飛躍的に研究の質を向上することができつつあることが挙げられる。今後も上記を踏まえて更に研究を発展的に展開していく予定である。

4. 今後の研究の推進方策

今後の研究の推進方策としては、引き続き現在の達成状況を踏まえて進めていくこと、雑誌論文・学会発表・著書のいずれにおいても更に多数の成果を示していくこと、立命館

大学グローバル COE「生存学」創成拠点での活動と連動する形で、その成果を国際的に発信していくこと、今後も共同プロジェクトの研究会等の場にて報告することを通じて飛躍的に研究の質を向上させていくこと、などによって更に研究を推進させていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計35件)

天田城介、「日付と場所を刻印する社会を思考する 学問が取り組むべき課題の幾つか」『老年社会科学』32(3)、253-360、2010年、査読無し(依頼原稿)。

天田城介、「社会学の問い方への問い」『ソシオロジ』167号、93-102、2010年、査読無し(依頼原稿)。

天田城介、「「老い」をめぐると歴史」『福祉社会学研究』第7号、41-59、2010年、査読無し(依頼原稿)。

天田城介、「家族の余剰と保障の残余への勾留 戦後における老いをめぐると家族と政策の(非)生産」『現代思想』38(3)、114-129、2010年、査読無し。

天田城介、「「脆弱な生」の統治 統治論の高齢者介護への「応用」をめぐると困難」『現代思想』第37巻2号、156-179、2009年、査読無し。

[学会発表](計18件)

！天田城介、「歴史と体制を理解して書く 社会学の学会研究体制の歴史と現在」、日本保健医療社会学会関西定例研究会、2010年9月18日、龍谷大学梅田キャンパス(大阪府)。

天田城介、「ケアと承認をめぐると係争点 承認するなら金をくれ！で終わらないこと」、日本社会学理論学会第5回大会シンポジウム、2010年9月5日、長崎大学(長崎県)。

天田城介、「方法論としてのゴフマン 「酸っぱい葡萄」あるいは「幸福な奴隷」問題」、関西社会学会第61回大会一般研究報告B「<ゴフマンの方法論を再点検する ゴフマンは「使える」のか>」、2010年5月29日、名古屋市立大学(愛知県)。

天田城介、「制度を社会学的に診断する 高齢者医療福祉実践の歴史と現在」、人間・環境学会(MERA)建築社会学を考える委員会主催研究会、2010年4月18日、大阪大学中之島センター(大阪府)。

天田城介、「「老い」をめぐると歴史・素描」、福祉社会学会第7回大会シンポジウム「『共助』の時代・再考」報告、2009年6月7日、日本福祉大学名古屋キャンパ

ス(愛知県)。

[図書](計33件)

天田城介、『老い衰えゆくこと の発見』角川学芸出版、2011年、全250頁。

天田城介、「老いをめぐると新たな人権の在処 統治される者たちの連帯をもとに介入すること/奪い返すこと」市野川容孝編『人権の再問』(『講座人権論の再定位』第1巻)、47-73、2011年。

天田城介、『老い衰えゆくこと の社会学〔増補改訂版〕』多賀出版、2010年、全683頁。

天田城介・北村健太郎・堀田義太郎編、『老いを治める 老いをめぐると政策と歴史』生活書院、2011年、全530頁。

早坂裕子・広井良典・天田城介編、『社会学のつばさ 医療・看護・福祉を学ぶ人のために』ミネルヴァ書房、2010年、全260頁。

[その他]

天田城介ホームページ

<http://www.josukeamada.com/>

立命館大学グローバル COE「生存学」創成拠点のホームページにおける記載

<http://www.arsvi.com/w/aj01.htm>